

科目名称:	美文字演習 (ビジネス実務学科)	
担当者名:	中山 千恵子、氣谷 裕美	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>時代の流れと共に自運 (自分で書くこと) に接する機会が乏しくなり本来の日本の文字であるひらがな、漢字、送りがななどが正しく使われていないことがあります。今一度美しく正しい文字の普及に務めます。</p> <p>また、筆文字・アート書道は、コミュニケーションツールとして活用が期待されます。</p> <p>イメージ力と表現力を養い、感性豊かな手描きの筆文字を描けるようにすることが目的です。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>文字の成り立ち方、バランス、一体感があることによりきれいで見やすい紙面になります。そのような文字の構成ができるようになることが目標です。</p> <p>また、筆文字・アート書道では、言葉の力、文字の力で普段伝えられない気持ちや思いなどを自分だけのオリジナリティ溢れる文字や文章にして表現できるようになることが目標です。</p>		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)			80	20	100
ビジネスDP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容 (内容・経験年数を記載)	
あり	《内容1》 氣谷裕美 デザイン業	《経験年数1》 20年
	《内容2》 氣谷裕美 筆文字・アート書道	《経験年数2》 7年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 ひらがなの字源	本シラバスを精読する。 また、10マスノートを練習する。	30分
第2回 カタカナの字源	10マスノート練習(ひらがなの字源)	30分
第3回 住所・氏名・家族名	縦書10行ノート練習(カタカナの字源)	30分
第4回 筆による用法の説明	縦書10行ノート練習(住所・氏名・家族名)	30分
第5回 間架結構法、中心法、分位法	縦書10行ノート練習(筆による用法の説明)	30分
第6回 間架俯仰法、分間布白法	縦書10行ノート練習(間架結構法、中心法、分位法)	30分
第7回 間架対位法、相譲相避法、概形法	縦書10行ノート練習(間架俯仰法、分間布白法)	30分
第8回 手紙の組み立て方	縦書10行ノート練習(間架対位法、相譲相避法、概形法)	30分
第9回 時候挨拶用語	縦書10行ノート練習(手紙の組み立て方)	30分
第10回 簡単な文章・楷書・行書	縦書10行ノート練習(時候挨拶用語)	30分
第11回 履歴書(授業内でディスカッションをしながら取り組む)	市販の履歴書への記入練習(簡単な文章・楷書・行書)	30分
第12回 まとめ	市販の履歴書への記入練習(履歴書)	120分
第13回 基本的な描きかたと文字のバリエーション	筆文字アートの種類について理解しておく	30分
第14回 <small>イメージ力を養い、表現力を高める描き方(情景や物の形を描写) より伝わる文字とハガキサイズの作品を完成させる(授業内でディスカッションをしながら取り組む)</small>	色々な文字の描き方の練習	30分
第15回 <small>イメージ力を養い、表現力を高める描き方(感情を描写) メッセージ性のあるオリジナル色紙作品を完成させる(授業内でディスカッションをしながら取り組む)</small>	オリジナル作品のイメージを考えておく。	60分
事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、各回の復習や予習を練習し理解しておくこと		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。 第1回～第12回の課題を80%、第12回～第15回で作成する作品を20%で評価する。		
課題に対するフィードバック		
提出課題を評価しコメントを添え返却する。		
教科書・参考書		
プリント配布		